支本

丈三

雜五

夫木和歌抄巻第二十三

雑部五

題

○海　湖　嶋　澳

江　池

正三位勲四等

新六四

海

六帖題

君代をそなへし海の殿造り　道の長手

光俊朝臣

同　新六二

たかあらの浦の海人の藻刈舟　世をうらやまし

光明峯寺入道摂政

川のもの川まかせにさすらへて　川海のかぎり隔あらぬ浦

中務卿

十首歌合

川の流の水に浮ぶ舟　春は流れ冷泉の水

保安元年後成卿家歌合

法下静賢

東京帝国大学図書之印

玉葉
五七

六三舟

長元

中納言家持

能宣朝臣

新羅の山

信實朝臣

前中納言定家卿

月

速懐百首

後頼朝臣

弘安元年百首

後二條太政大臣

後九条内大臣

地儀百首中寄月恋

参議為相卿

和国なる日吉社の社頭なる
祇園社百首 川
川はるかなるしらなみ
立帰り
日の神の光なるなみ
百首 二
住吉社百首
難波
しほの海の堀あし
建保四年内大臣家合
湊島難波
民部卿為家
異后宮
慈源和尚
後鳥羽院
後京極殿
後法性寺入道前関白太政大臣
入江なるみの海
五十首歌 二
光明峯寺入道殿
家集 二
谷中
源仲正
千首 二
国歌大観
家集
好忠
人丸
家集

霜をみきの杉をあさきさ山にさほす鳥なり

永集法門寺みのりの海　殷福門院大輔

なるねをきくくの海をくもみのりの海を今ぞ知る

百そ法の海　同

法の海にはくしきをねぬ世をとみのかの流をしら

客人宮十五番合くるき海　慈鎮和尚

いかに月はいき世の海をとをしくるきの毋をとを子

新京竟宴おこなはれし時ここの海　後鳥羽院

雲葉

須佐之男

和歌集連歌　後九条内大臣

華のあさしをとをとをの海をえくををるをきをも世をの波

御言中　同

難波潟にいかもををの海は月ををを京の道海

みををしをを南海ををくを月隈ををををを南の海

白川法皇

前大僧正隆弁

波をををき南の海にををををくををの山ををを月影

加元三年楚恩百首

男山ををの口をを井ををををを南の海を角をを

洞院摂政家百首　西の海

藤原門院但馬

みの海をををを井ををををを白をを

光豊院入道二品親王家五十首歌

海旅

従三位保季卿

水の海の月やそらなる浪の上に
題を知る人

海

大海の潮もみちぬよもの月
千五百番歌合橋立　参議雅経

月ゆゑ袖にうつる根の上の夢
家勝四天王院名所障子

立渡る波の上の浦風
同　加賀法印

厚氷とけぬる春の浦風
後鳥羽

安井の浪分　波勝寺

続紀天平七年七月己卯
菅原道真伝　同御宮成遷
似白鳥者以祭之見此
讃岐国天満宮
浪山宮井也

安井の浪分橋

高元

高元人とされまうの所

加茂

高元

月

高元

月

高元

月

建保三年百首

正三位知家卿

かりそめの浦のみるめ

同

むさしの山にかゝる月の影雲にかくれぬるかな　前中納言定家

雜の中

さゝむきの入日の影のうつろひにまつ山の色　右近中將經家

あまのゝ里の秋の夕ぐれ

新撰風体

はるかに入海みなく夏草の　前大納言為氏

影不知　伊勢海

百十二

伊勢の海ふかく入日の影ふかし　讀人しらず

題しらず

百四

伊勢の海の磯もとゝろに　同

玉集

伊勢

伊勢の海のあまの袖もあまの衣　黒主

影しらず

百十

伊勢の海の沖の波の音高き　小大君

題しらず

伊勢の海の波のあさゝ堀の　前中納言定家

建保三年名所百首

伊勢の海玉ゝ波ゝ櫻貝ひろふ浦の春色哉　衣笠内大臣

新六三歳

六帖題

伊勢の海の磯のさゝ波　源師光

玉葉入道三位親王五十首

伊勢の海きよき渚の駒ならし　駒ならし

御集海道月

鎌倉右大臣

伊勢の海にうかぶ月の影の明の月を見る

筑前國より下はる時よめる　人丸

慕戸百三

なかつしの海の波の沖にこぎ出ぬと聞人の知

長三

百六十八

あかつきの　神の見ふ　立ちもとる

いるみ野の　大海の原　出る人よ

さし出の浦よ　しほ干なく　あま舟とよ

堀やく

讀人知

新百三

六帖題

衣笠内大臣

月見ればちぢにものこそかなしけれ

佚集

中務のみこ　鎌倉

はるばるいるみの海を舟にのりて出でつつ月を

長三　石見の海　人丸

百二

ほのぼのと石見の海の朝なぎに

いりぬるをしらぬ海人の釣舟

光明峯寺入道殿

家集

海イ

現存六

ほのぼのと石見の海の朝なぎに

きこゆ足音の浦の波風

相模

家集

いそ辺いこの海の波もしらぬまで

正應五年三島社十首歌　前震の時

為道朝臣

伊豆の海や奥津波風あらきなる

伊豆國

讀人知

○宜本のあにとつも浪のありつるしらけるんあえかなれそ

箱根湖 相模 鎌倉右大臣
玉くしけ箱根の海はけゝれあれや二山かけて何かたゆたふ

三島社十首山月 法眼慶融
玉くしけ三根の山の峯よりも水海かけて渡る月影

家集云中 土佐の海
土佐の海に御舟うかへて遊ふらし都の人は風をのそき 中納隆

久安百首 前参議隆親
いせとこのそきもなみのはてゝも見きとさの海よ

狂言 空仁法師
君か代は限りもあらしとさの浪弱ますてるすらてとまて

天代 ○文治三年
ちぬの海 陳奴 播津 正三位知家

播津 陳取
現存六 ちぬの浦の濱の小塩焼寄くる浪の音まさりて秋風はふく

下十 題不知 人丸
ちぬの海濱の小松根ふかめて吾恋わたる人の子ゆゑに

寛喜元年女御入内御屏風海辺網引千鳥海 西園寺入道太政大臣
伊勢又紀伊
うらうらとのとけき御代のしるしとやちぬの浦はのあまのたく縄

続後撰集秋六年 従二位家隆
しら浪のあまのたく縄くりかへしちひろの海ににさるゝは

懐中 題不知 よみ人しらす
秋風に吹かへさるゝちぬの海のそこなき玉藻夜くるゝまてに

常陸 下十一 月 月
大舟にのりてこの海にいつるにはみえつゝしかも見をりつゝ

家集　　光俊朝臣

涙あらきかたりし波のゆくすゑを世をうみ出せる
此ごろハ康元二年十二月九日庚寅社にて
衣ぬぎ手ぬぐひ其時の涙をすてに船をこぎ
て濱にくだりあるて思ふ事ハ
し井ぬ毎もつきくゆるしを自そ
て行くしに井て波をわけ行けるみち
ハたゝまくさりしこゝ

天仁元年大嘗會悠紀方御屏風近江國

よこ山ぬの山陳せるこのゝ
求集　　前中納言達房卿

よこ山ぬの山陳せるこのゝ濱千鳥
　　好忠

西行上人

我見ぬ知人戀
よこ山ぬの君見しまゝ
求集中　　好忠

よこの海ぬらしぬ濱ぬ
　　後頼朝臣

月
　　鴨長明

海の海ぬ島ぬ
求集　　月

ひかりぬ入海ぬ
求集中　　月

浦海ぬ紅葉ぬ
　　和泉式部

月
　　月

よこの海ぬ海ぬ生ぬ

弘安元年百首　　後九条内大臣

霧のたちまさりぬるかたもしるかりけり山のうちは

常陸国歌　　讀人しらず

ひたちなるみさかの浦の白藤をひけばたちまちあせぬる

衆集　　祐挙

うばたまの月のつかひか庭たちてなるかたはあまのくるらん

題しらず　　讀人しらず

みこの海の磯の浦まを舟あん

千載　　田邊福丸

みこの浦の塩のさやいまはうしはまの時雨

越中国住吉社長歌　　中納言家持

すみよしの岸のおもりあひらぎなるみこの浦の

おきなみをはるかに海をなるる

鳴水なる　　平経正朝臣

みこの浦はあかつきあさはなるしほかさしてしまの

豊受入乃社歌百首　　民部卿為家

みさかの浦の塩干のさかはあるかの磯のうら松

衆集法門望　　権僧正公朝

みさかの塩干はさかりなれはかりかしはまの浦

意寄中　　法橋顕昭

磯ちかくしるこの浦はしまかくれ

伊勢　　讀人しらず

みこの海の磯の神あるかな

千載　　みこの海の浦ふるさきまの濱千鳥

七夕　紀伊　　讀人しらず

後拾遺 百十三

後の世のしるべ法のともしびを　こぞうまなく
菊世のうへ　あんとあるべき舟の

題不知　むこの海行平

百三

雜 百十五

むこ法の海のうみのあまをぶね　権中納言忠方卿

玉葉 二

安集 雜

むこの海法のうしの聲　関かと寄せあれはもも
人れ

安集　むこの海　冊後

法後 百十七

むこ法の海のうみのあまの　心を寄せて
鎌倉右大臣

拾集　むこの海行平

みるとはしらぬ法の海　舟こもりまて
題不知　讀人しらず

百十七

舟の海の法の海　舟こもりまて

正治二年百首

法のうみ舟のこぎ出る　前中納言隆房卿

題不知　讀人しらず

百十二

のこる法の海の法の舟　洞院摂政百首

のこる法の海の法の舟　洞院摂政百首

題不知　讀人しらず

百

陸奥

松の法の塩竈の浦　十五百番歌合

新古今

法の海の塩竈の浦　前中納言定家卿

弘長元年百首

法の海の塩竈の浦　書写山入道摂政

法の海の塩竈の浦　あき歌　道はの舟

弘安元年百首歌中

後九条内大臣

述懐百首

後朝恋

弘長百首

衣笠内大臣

建長元年十合

華山院内大臣

題不知

大僧正主

中納言

泉川

入道摂政

越中国住吉時布勢の浦

中納言

題不知長歌　讀人しらず

百十七
海の海　小舟こぎ出て　いさりする
海の面よ　霞こめ　月は照り
ちぬきく　夕風吹く

題不知　筑前

百十六
ひさかたの　雲ぢ　こぎ出て　月見れば
海原　こぎ出て　月見れば

寛元二年閏九月三日合見海月　道因法師

建保五年内裏三合冬海雪　後鳥羽

三笠の浦の山ふきの雪　月は心の底に
さえ渡る　嵐　雪　風
村雲の　あとの海の　月　海の面　近江

能因法師

永久四年百首　水海

後頼朝臣

百十三
ひさかたの　海の　いりまもなくて　みなとは
鄙の　海

百十二
相坂の　関の　清水　近江
新拾遺

同

近江の海　夕なぎ　浦風
人丸

百十七
近江の海　夕なぎ　浦風
みるとはなしに

同

長三

讀人知　柳葉集

君の　舟　こぎ　出　帰せり
長三

讀人知

君月は　山の　端　離れ　雲
永久四年百首　水海

後頼朝臣

ひさかた　元　海の　いりまもなくて　みなとは
鄙の　海

百十三
相坂の　関の　清水　近江
新拾遺

同

近江の海　夕なぎ　浦風
人丸

百十七
近江の海　夕なぎ　浦風
みるとはなしに

同

長三

讀人知　柳葉集

君の　舟　こぎ　出　帰せり
長三

讀人知

近江海の底にあり仏橋の底にあり

正治二年百首　　小侍従

春ゆくを惜しみとどめぬ花の色に

長方　　讀人不知

題しらず　　中務

春雨の降りてのちの花の色

集　　讀人不知

時雨風吹きまさるなるあらしの

同　　長沼

月さえて海の面に氷の

同

あまの海の氷の上に

建保三年内裏百合合　　源二位実隆

建長七年　　源中遠

初横

海より見し

源光行

山寺法次記箱根

東より

山中小屋

衣笠内大臣

紀伊 新六 六

六帖題 鵜

紀の海やあらいそ浪にすむ鵜こそ世をうきにのみかつくなりけれ

万葉

題不知　読人不知

ひさかたの月の浦のしもをいかにしつるかあかねさすも

拾遺 影供百首 月　後九条内大臣

よはにやゆらのみなとのしほかせに月もいつよりみちしほのかけ

永仁大嘗会　前中納言光縁卿

紀の国や磯山もとの松かけにたつ波かけて千代の舞人

堀河院御時百首　権大納言公実

春霞たちへたつれと紀の海のなみのうへにやあまの舟

一千十七

月　中納言家持

すまの海あさなゆふなにしほたれて

無部親王　恵慶法師

須磨の海千世ふるまつの

駿河国

讀人不知

するかの海

家集　信実朝臣

康元二年毎日一首中

信濃

民部卿為家

月

月

百首歌

西行上人

慈鎮和尚

清輔朝臣

千五百番歌合

法橋顕昭

湖

寛喜元年第八月

光明峯寺入道信濃

康元二年毎日一首中

建久七年百首歌

前中納言定家

元久元年七月宮内卿水月

月

曽屋入道遊桜故右兵衛督の集

あかつきの霞やまよふ鳴鹿の声ものこりに秋寒かりて
西園寺

建保二年四季百首
従二位家隆

たつ浪やしほ風あらき浜の波のしまのまつ風ふく
谷所云中はかなしく
参議為相

入江のなみせんかたもなく松のこのは葉もあしたの塩風

乾元二年仙洞三十首合 雑朝
前中納言為兼

なせ山あさ越くれは濱の松入あひの浪のこゑ

家集 永仁六年 羇中眺望

なにし山ゆくへも見えてよはの月一すちしろき浪の上かな
法眼慶融

題しらす
人丸

さゝ浪や志賀のからさきさきくあれと大宮人のふねまちかねつ

百首歌 波揚無量自然妙聲
為顕

よせかへる志賀の浦風はなみの松よくあはれにきこゆ

建保三年名所百首
従二位家隆

志賀の海や白ゆふ花の浪のうへにかきりもしらぬ風そふく

西洞隠士百首哀
後京極摂政

志賀の浦や波にうつりて山風のふきまく秋の松の木の葉

[illegible]

百首哥湖帰雁　従二位家隆

[illegible]

御集　衣笠内大臣

[illegible]

鳴

題不知　讀人不知

[illegible]

六帖題に侍る歟

中務卿のみ濱屋

[illegible]

祝言哥

中原師光朝臣

[illegible]

家集水無瀬殿

清輔朝臣

[illegible]

同意哥中

隆祐朝臣

[illegible]

題不知

[illegible]

草枕[illegible]

寶治二年百首島霞　前中納言定嗣

[illegible]

題不知

讀人不知

出雲 懐中

朝ゆ 家集 行勢

基俊

白波の いこの浦の 白玉や
麻績王

五一

立帰り 今をこゝ 浦の玉藻 刈りて
幸于伊勢国之時作京

円

志賀さ井 いらこの浦の 潜舟 入
人丸

為ゆ 音音
後二作隆

鴻 いらこの浦の 塩さ井 わたる
下筑紫時長二

舟比 真人 笠丸

出雲又百首 懐ア

人の浦 磯 ひさ
五十五

題しらず

後人 知

人の浦 若ゆ 浦 つ
弘安元年百首

後九条内大臣

浦 山 ゆ 浦 人 浦
求集

後二位家隆

人 恋 人 浦 山 春 舟 浦
寛治二年百首 紀伊国名所百首 光堂院入道二条のみこ

俊

浦 舟 浦 浦 舟 浦 浦
題不知

讀人不知

五七

浦 舟 浦 浦 浦 浦 浦
新勅撰

詞林

浦 浦 浦 浦 浦 浦 浦
円

寶治二年百首　紀伊　衣笠内大臣

海人の住む浦こそ海の塩の色少なくすみ染む時なし　讀人知

題しらず

一九　あま隠れ海にて見わたす島の上の月の出でぬる時の夜の月　西行上人

求集。小きみの島イ

伊勢　みよしの山下　みよしの山の桜花散りぬる時の夜の月　讀人知

題しらず。とま島尾張イ

美濃　春をへて咲かぬ花とこそ思へ散りぬる時の夜の月　同

長門　さそふ方なしと思へ浦の波の心ありてまけぬ秋の月　法性寺入道

弘安元年百首雜二。こーまイ

標葉　のどかなる海の堀満ちし玉藻刈る海人の帰るさ　同

後一条入道関白

肥前　あら磯の先に月は高くなりぬ時の夜の月　同

求集

白波のよせかへりぬる時の夜の月　東之

求集

月。ちーまイ

陸奥　おきつ波ちかくよせくる時の夜の月　法性寺入道

求集

海のちかく海の底の夜の月　清輔朝臣

百番二合

思ひかねぬ時の夜の月　法橋顕昭

求集

春風　晴れ渡る時の夜の月　沙弥祐伯顕仲卿

後一位拾子入道　後十首二合　讀人知

後一条入道関白

月。ちかのーまイ

肥前　あら磯の先に月は高くなりぬ時の夜の月　同

求集

白波のよせかへりぬる時の夜の月　東之

求集

月。ちーまイ

陸奥　おきつ波ちかくよせくる時の夜の月　法性寺入道

求集

海のちかく海の底の夜の月　清輔朝臣

百番二合

思ひかねぬ時の夜の月　法橋顕昭

求集

春風　晴れ渡る時の夜の月　沙弥祐伯顕仲卿

今新古旅 伊勢 大納言 同
とまりする(?) 霞の 波枕ささる(?) 御歌(?)

暁やしほ海の磯の朝風にさわかすねよ由良の浦人
従二位家隆

雲葉 風雅
明わたる海の霞に漕出てかすみに[illegible]釣舟
長禄三年九月顕輔(?)[illegible]歌合霞
藤原忠兼

数ならぬ(?)[illegible]磯の[illegible]あくるしほ[illegible]真砂浪
寛元四年十禅師宮歌合霞中眺海
信実朝臣

あし浮(?)[illegible]波[illegible]霞[illegible]
題不知
人麿

出雲 夫木 万三
いつみ(?)[illegible]思ひ[illegible]浦人
従二位行家

様(?)[illegible]新[illegible]百首
[illegible]の[illegible]も[illegible]の釣舟
六帖題御歌
中務卿親王

かこの浦[illegible]の夜は
久安百首
実清朝臣

はりま潟[illegible]海の浦人
家隆(?)
[illegible]

現存六
かゝみの浦[illegible]やまかしのちかの[illegible]釣舟
文永五年十首歌合 中務卿親王

山(?)[illegible]かすみ[illegible]かさ[illegible]
修理大夫顕季

玉藻かる[illegible]の島[illegible]
赤人

一百六

玉藻うかべる水の上にあらはれたる

長歌

いるみなの海かすかなる海の

海きよく

民部卿為家

一百六十五

、千鳥しぶく

紙鳴かの島

遥かなる海のかなたにまかりて

後二位藤原隆房

安嘉元年

業房卿の歌

周防國府里布浦行幸供奉

讀人しらず

一百六十五

遠かなる海の中なる島にまかりて

紙鳴の島

建保三年若宮百首

後二位藤原隆房

神島の海辺

神島の海辺にまかりて

讀人しらず

一百六十五

神島

仲恭天皇

神島

鴨長明

此所は伊勢記に西行法師住侍けり安養山と号

所より八幡宮へ連なるなり

時海辺落葉

寛治元年百首

後二位行家

題不知

鶴の夢を見て

千首歌

民部卿為家

[illegible]

題不知　讀人不知

[illegible]

後九条内大臣

[illegible]

祐舉

俊頼朝臣

[illegible]

題不知　讀人不知

[illegible]

同

[illegible]

権僧正公朝

[illegible]

民部卿為家

[illegible]

参議為相

[illegible]

従二位行家

[illegible]

御集撰月

[illegible]

徒然百首島鶴　民部卿為家

[illegible]

永仁四年七月忠隆卿家百首

[illegible]　法華院

玉津嶋三首歌合　島春月

[illegible]　右兵衛督為教

[illegible]

六三

[illegible]

同　人磨

[illegible]

建保三年若宮百首　俊成卿女

[illegible]　慈願和尚

千五百番三首合

[illegible]

建保三年若宮百首　順徳院御製

[illegible]

題不知　讃人[illegible]

[illegible]

長三

[illegible]　中納言家持

題不知　読人しらす

あはれ君か心とみちのくの野田のたましみかゝる

天喜元年八月頼家朝臣家越中國名所歌

合立歌　同

月きよく塩竈の浦のみなとにはうきよにすきる

題しらす　同

かなしきはよそにみるめの海となりてうき浪のよるかたもなし

康保三年十一月源経仲朝臣出雲國名所歌

合婚歌　菅原道貞

今はまたよそにみえける海のとや舟のよるへもなきにあはれ

文應元年百首歌　権僧正公朝

たかくなみの音をきくにそへてもかくやとそ思ふ

百首歌奉りし時　後九条内大臣

春の月こよひそ海も神代のむかしも思ふ人のいはね

康平四年三月祐子内親王家名所歌合　中将

海

初秋のはやまにすめる月かけにかそふるはまの

同　陸奥

志賀の浦にかゝるなみの花の上に見えぬ入江の

題しらす　人しらす

別れてもたのみし人の吹く風のたえまのみこそかなしかりけれ

同

同

わか命まつとの浦の松かえにたちよる世をもかけてわすれす

千五百番歌合　正三位季経

君代ハ長らの濱の小まさこ数へつくさまく

新集　信實朝臣

霧ふかき井手の渡りにも霞見えて宿かるなれ

人しれす

下館やむろの濱の烟思ひあへるかへりけり

玉葉　隆祐朝臣

ほのかなる烟のすゑをむしろのうらは人の住かり

題しらす　後恵法師

むしろ田のせきの夕暮にぬれつゝ見し

新集島松雪　民部卿為家

浪のよるのまゝ雨のあはれなるに

中務親王

夏の夜のまた夜もふかき月のかけしはし

新集海邊雪　權僧正公朝

湊のしほ風よむし秋のうちに初雪ハ降て

建仁元年老若五十首歌合

後鳥羽院御製

詠めやる夕暮のあしたの月

大宮大政大臣家にて浦島の子とよみ侍る

長等

いつこにてをのことものゝ月をみて

讀人しらす

たかしほのさとにもたつ鶴の声もすみ侍る

同

みしほの浜よりあまのかよふ人

君代は長の海の小雪原ふるみはてぬる
信實朝臣
春の集
春の夜の月の影をもしるべにて宿をとはばや
鳥羽殿
六三島
下野やもしの原の風の海の月の煙はあまの釣舟
藤原為家
玄三中
陸奥朝臣
海ちかく烟のなびくもしほ風
題しらず
後恵法師
もしほ草の世を経ぬるかなしさは
春の集島松雪
藤原為家
春の夜の月
中務親王
清原
詠ずる書は本朝にかへすべし
大宮大政大臣
長三中
後鳥羽院御製
月の光の清のこゝろをつゞけ
同
海の底月は
書物

御集

中務親王

俊頼朝臣

法性寺入道前内大臣

雅仲朝臣

文脩

陸奥守藤原

衣集

前大納言

建保元年若宮殿御方法橋

順徳院御製

同

寛治二年百首

後鳥羽院御製

五百首御会法橋

尼法華

寿人

後九条内大臣

唐人の伊を　中納言

唐慶法師

建長八年百首合

左近中将長氏

卜部兼直

寄舟恋

後九条内大臣

大和

御集羇旅部

備後乳母伊へ下けう時餞せさせ給

陸奥入壹後

謙信公

長久元年内裏歌合

讀人しらず

主殿

寄舟恋

宴集みちのくに人くにの子貝

長久元年八月十五夜内裏歌合

寄舟恋入道二条関白

宴集

宴遊法師

春宮亮の賀屏風

春宮亮の賀屏風

人のあなた　九真

八十嶋の浦入海をみはるかす年もあまたの春にあひにし

百首歌　皇太后宮大夫俊成

いはふ八十嶋かけて見渡せばすみよしのまつかぜ

同　重之

八十嶋の出入の舟の数毎に今日つかへまつりくるまゝに思しらせよ　讀人しらす

拾遺　浦月やなかにすむらん嶋々のすむ千鳥なくかたなき人

同

夫木　海原やみなと八十嶋の白雲のまよふ嶋はをふかみ

同

弘安元年百首　後九条内大臣

続古今　をちこちの八十嶋かけて見渡せば浦の松原かすみてぞ見ゆ

建保三年名所百首　中納言定家

ふる夜をこゝろふかきねに根ざす人やあまの八十嶋の浦の釣舟

続古今　寶治二年百首　常盤井入道太政大臣

すむ浦も千世も千世も千と世の重なりし根に根にさす松の八十嶋

同百首詠八十嶋を　源信平

あしの川の帰るさし上手く見えて世々に八十嶋

六帖題あま　権僧正公朝

堀ちのあまにたれ八十嶋をまつにや帰る八十嶋

寛元三年毎日一首中　民部卿為家

夏かりの葦のかりねにあひにし八十嶋

六百番歌合遠恋　法橋顕昭

続集

[illegible]海[illegible]

海辺春　　従二位基雅

塩竈[illegible]浦[illegible]年[illegible]

民部卿家歌合　　恵慶法師

[illegible]の浦[illegible]夜[illegible]

立春中　　源平[illegible]

春[illegible]海[illegible]関[illegible]

題しらず　　幸覚法師

桜[illegible]海[illegible]見[illegible]

久安五年七月山路歌合　月　　藤原[illegible]

[illegible]海[illegible]月のひかり[illegible]桜[illegible]

六帖題　藻　　権僧正公朝

桜の[illegible]舟[illegible]

建長三年九月十三夜十首歌合　名所月　　衣笠内大臣

[illegible]見[illegible]桜井の[illegible]月

堀川院御時百首　　[illegible]

難波[illegible]塩[illegible]

康元二年毎日一首中　　民部卿為家

[illegible]の[illegible]塩[illegible]見[illegible]

御集　衣の浦　　中務卿親王

[illegible]小夜[illegible]衣[illegible]秋[illegible]風

題しらず　　読人不知

武士八千貫淀川の石垣普請
惣奉行
華月百貫御手
慈願和尚
あるしや元そうし
西行上人
衆集
いけりあまた時よりえそらもまたすり
同院桜家百貫
後九条内大臣
淀川
松そう院の月も哀しき
城川院御服百貫
大納言師頼
あそうすすきの中の世人
あそう海の磯
権中納言長方
衆集淀川
走井の清水すゝ
弘長元年百貫淀川
民部卿為氏
堀川のあそう汁
淀川
淀人
あちかうめ
一万七
郭
磯寺
淀人
淀川
一万二
あちかうめ
舟
淀川
人麿
一万二
於
信そのさかもとの淀
淀川
栗嶋
赤人
淀川
一万三
七社の清水
舟
栗
讀人しらず

あまの海人の藻刈舟こぎはなれ
遠くもあるかな
重之

玉集 廣島 あの欲

もゝしきの大宮人の多賀いくの陸奥の軍所海山
文治二年百首 霧

皇太后宮大夫俊成

紅葉ふむ社頃の山路をたづねあるのまの山
長方

讀人しらず

いとはるゝ身をもしらぬ山ぶしの
あさぼらけかな
中務

にこ賀治二年百首

こぎ

ちはやぶる宮の御前の
長方

光俊朝臣

かり鳴

長方

長方

ちはやぶる宮の御前の
千年をもかけてまもらん
同

續 六三

朝臣

あまの海人のこぎ出る舟
朝ぼらけ
人知れぬ

玉集 然るべきの島 元秀

祐挙

朝臣

ちはやぶる宮の御前の
千年をもかけてまもらん

あ元ハ三の朝臣 ひとり

下りしにぞ

和歌三十ばかりてやはらぎ
ぬ

ぬ

為二位 朝臣

夢のうきはしの
寶治二年百首

定二位 朝臣

さ波の磯の

弘長二年中務丞親重卒去之今

頭盤

讃岐

人磨

大納言大伴

権侍正之朝

正二位知盛

長田王

讃人麻

大宰大貳高遠

弘長元年中務親重卒去百首

ゆふしての（?）かけてそ神に祈りつるみやこの(?)よろつ代の春　権僧正公朝

新古集雑部上二十首
三熊野のうらの浜ゆふ神のみわさ(?)にかけて祈るは
　小将内侍

家集
そのかみ(?)わか(?)すめらきのみよにゆふしてそ(?)みそく流る所なりけり
　盧主

拾遺
中々にみそき流せる川のせにさらはえて(?)ものを思ふ頃かな
　俊頼朝臣

拾遺集
みつうみにみそきをせしをみたらしの流をたのむ波そたちける
　紫式部

此歌ハ(?)…人ニ(?)…書付て(?)…

現存六
すゞしさは夕風まさる(?)みそき川みなせ(?)の流(?)…
　正三位知家

家集
村雨のはるゝ(?)…みそきする(?)
　重之

続詞同
都人…かけて…
　従三位頼政

古今
あまつ(?)…みそき…
　権中納言長方

家集
今日…
　民部卿為家

文応元年七社百首
うすくこく…

寂勝四天王院名所障子

参議雅経

同

題しらず

いもの名はよもぎなりけり小松原　吉野まくに

鎌倉右大臣

千ちよのあるじ　後頼朝臣

永久四年百首

しらなみのあらそひ舟にうちすてゝ　讀人しらず

白波のこゝろにかけぬ年はなし

後頼朝臣

西行法師

日かずすぎゆくこゝろ　あるせゝの鶯ゝ鳥ゝ　述懷百首

後頼朝臣

すゝ濱なるあきさはのもとすゝれ

澳

澳　說文隈崖也兵内曰澳兵外曰隈　集韻作奥詩瞻彼淇奥又號顏

書多院入道二品親王

永五十首　眺望

月もなほ　書多院入道二品親王

親王家五十首

野宮左大臣

尋ぬ　澳　舟

同

覺遍法師

はるばるとこの原をこそ中の行くらしい

家集御哥中　西行上人

磯山の辰巳はくもりかぬれども中よりやあらしの

人を磨

一百十五

鹽干るくまもはきこえしかたのうらに立ぬ

十五首歌合　前中納言定家

うしやさ秋かぜ吹ぬ雨ふりぬ月の月影

堀川院御百首　權中納言師時

手ひとつ雨はらひしく傳の中のまつ

家集月二中　西行上人

はるまもなくたよりこそ海よりきぬ月をまつ

家勝四天王院名所御障子　後鳥羽院御製

難波江の芦はのうらの夜の波の中より鳴ぬ時雨

義安二年廣田社二合

隆信朝臣

建仁元年十首二合　大納言通具

清見潟波の中より出る月

寶治二年百首海眺望　前大納言為氏

清見潟ふらもくまなく見わたせば波の中より出る月

堀川院の御時百首　権大納言公実卿

かさゝぎの渡せる橋にひくもりてさけもとみの浦ましく

建仁元年十首歌合朝上朧霧　後鳥羽院御製

志賀の浦やおしてのうちにまつ秋も月の入方の有明の月

最勝四天王院名所御障子　肥前

白妙のひれふる山の雲と峰さえて〻川の中の浦に寄せ来る　大蔵卿有家卿

月

夏の夜もまだひれふるむるけ二見の浦にあかす月影　従二位家隆卿

月

氣にやうつもせうけく塩竈の浦の中に舟のこととはむ　後久我太政大臣

洞院摂政家百首眺望

雲かゝる紀の沖やはるゝ人やら新しき者〻〻　前中納言定家卿

建保三年内大臣家百首　江月

秋の夜のきよみかたの海のうき枕人めかれ月ぞすみける　従二位家隆卿

御集

浪風の荒き磯部の中の綱ひけかくてもあまの苦やまさると　後九条内大臣

家集

子こ浦の浪ふし朝いそけきま〻〻のかなしき〻は〻る人　後徳大寺左大臣

よ集まてせくるもなし

西行上人

[illegible]

[illegible]

建保三年右衛門督

前中納言家定

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人まねさせる月の新月に入月の屏風歌
前中納言定家
仙洞五十首に上月
後京極殿
旅人の袖に月の海づたひ
行くかりの夜ふけの月の
御集月三五首中
後鳥羽院御製
月の結ぶ人の夜ぶきに海
百首御三首
中務親王
舟こぎ入る月の新月
六帖題御三首村雨
同
舟こぎ入る夜ぶきに
同百首月贈答
光俊朝臣
別れ入る舟の海づたひ
月の新月

六帖題
舟こぎ入る月の新月
大井川行き人に松年の
恵部の重家
御集御三首
見雅経
水まさる嵐に合ふ
後京極殿
桜三首
山の入る月の
経信卿
月の入る月の
右兵衛督基氏
寛元元年御入内御屏風

[illegible]

文集百首花落城中地春深[illegible]

同

[illegible]

[illegible]

同

[illegible]

法道宗次百首[illegible]

[illegible]

[illegible]

玉葉建久元年閏十月廿日

中宮権大夫殿

霧中老僧之事

紫金臺寺入二条親王

光俊朝臣

俊成卿女

紫金臺寺入二条親王

市集

建保三年名所百首

洞院摂政家百首

長明

洞院摂政家百首

長明

後鳥羽院御時百首十五夜歌合

如願法師

洞院摂政家百首

従三位行能

正三位知家

六帖部

中宮大夫殿

前民部卿雅有

[illegible]

陸奥

寛治二年百首歌。　正三位知房

[illegible]

仁月

[illegible]

前中納言[illegible]

寛治二年百首歌

源経仲

[illegible]

後[illegible]院御製

[illegible]

鳥イ

[illegible]

俊頼朝臣

[illegible]

満ア

[illegible]

赤人

[illegible]

中務親王

[illegible]

殿屋門院尾張

新勅撰

文治中

[illegible]

寛治二年百首

[illegible]

衣笠内大臣

正治二年百首

小侍従

[illegible]

長久二年十月庚申夜祐子内親王家歌合

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

弘長元年中務卿親王歌百首

権僧正親朝

[illegible]

重之

[illegible]

[illegible]

平正親朝臣

[illegible]

赤人

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いとこ[illegible]程[illegible]神のうつ[illegible]

六帖題堀　　権僧正覚

ふりにの平ほ八堀の[illegible]

文治二年百首　　権中納言定[illegible]

ふりにの[illegible]

[illegible]

[illegible]

貞應三年二月廿五日　百姓等

民部卿為家

みまくの澤の若菜摘みかはしゆふ陰のうすもりのかさ

百姓等

土御門院御製

こしぢのやあのそ山の雪ふかし春はいかにと問ふ人もなし

建保三年第百首

順徳院御製

ひまもなくさかりに見まほしきかの武の名をのこすかな

寛元四年日吉社百合

江上月

民部卿為家

井原に光る蛍の流れ合ひ人なかるなる夜半の月哉

讀人不知

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

文集百首花落堂中地春深日上天

同

[illegible]

家集

[illegible]

四条宮下野

池

沙集

[illegible]

[illegible]

後の百首下

[illegible]

[illegible]

[illegible]

長絹

長元　　積人百

弘安三年三月社百首　　安嘉門院四条

文永三年七月内裏七百首初度内

光俊朝臣

大和　池

長絹

永久四年百首　　六条院大進

法下定国

百首歌

伊勢　人麿

桜ちるもとの山風吹ぬれば

建保三年名所百首

前中納言定家

月

春雨ふる山の木の下露に

後鳥羽

月

春雨ふる山の桜の散りぬれば

隆信朝臣

月

春雨ふる神の社の苔の花

藤原康光

月

春雨ふる山の寺の苔の花

貞應三年百首歌合

民部卿為家

義なりと風吹ぬれば草ゝ人の移かはる人

讀人しらず

題

近江なる竹生島の社の人の詠

同

同

西

竹生島の社の木ゝ人の移かはる

知經法師

冬二首

書

冬ゝ氷の結ぶと有る人ゝ

讀人しらず

題

ひとり寝の床の氷の結ぶ

同

春二首

内

はつ春の氷の結ぶ

新六歌仙

六帖題なれば

民部卿為家

はつ花の咲ぬる時ゝ

永久四年百首

仲實朝臣

冬二首

冬ゝ氷の結ぶ

橘則廣

冬二首

はつ花の咲ぬる氷

後頼朝臣

貞治二年百首歌

信實朝臣

冬ゝ氷の結ぶ

正安二年百首歌

右兵衛督隆教

はるやの年の新しき月に社の池の柳
題しらず　讀人しらず
つのさしぐむ社の池の柳
同
同
いもうとの社の傍の柳
みそ言
正三位重信
洞院摂政百首
題しらず　讀人しらず
夏
夏歌
夏の池
夏の池
夏の池

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寛安五年三月重修之事合池遥寒芳

二條太皇太后宮大貳

あらしの山桜をうつしうへ侍りける

夏百番歌合

うきしづみ池のそこのいろくの石の数

奥郭朝臣

御集光俊卿詠中

後京極殿

散まがふ桜と波の時をえてあらそひ咲る池

慈鎮和尚

百首歌中

夏

水鳥のうきねの波にたちぬれて侍る

権僧正良

大和五郎

冬三首中

いろかへぬ松をそなへて池水の氷の下に

後二條太皇太后

夏集三首中

宝治二年百首

あさ氷とけぬる池の水鳥の

長月四日下

三百六十番歌合

有馬温泉の川おきに動く池のまこもの

長生院入道二品親王

若所の名所百首

むすびの地

和泉式部

いきてよるの年もまさりけりいけるなかの

六條院宣旨

女集 杜若

六條院宣旨

おもはぬ人をこふる池のうきねをとはぬ

長方

大和 百十三

みそぎとつきぬ池の蓮葉

雜

拾集

人さまに昔はなりぬるこんの池はてらふ
世の中はあしかりけるの年をへぬ所
し知れるなりぬるかの池の底つ寺にて相逢く
せうそこすとて讀ける

大皇后宮肥後

春

丁巳歲ふる井の池はかの新大宮
永久四年百首

西行法師

立ちぬる波の池ふるまつ
心のまにまにやこそ
成尋法師母

入唐の時の三の
神はしら波の池ふる月
拾集序の三

紫宸殿

康治二年九月歌

拾集

ふる澤の池のそこ
大宮前

大和

雜

おもてたのしけれ
建長八年百首三の合

西行

前

前の人
百首三の

俊二位邦氏

春

ふるさと
桜井影供百首

大和

ふるさき
六帖題

後の帝國氏

正三位知家

彰六

あさし世とうきねの池こほりとけ

安長 山椒

鳴る明

つのくらき風はのすさぶ夕べにぬるる夏

ちとせ人しす

大和 五二 枝葉

うゆの池はかのくれ葉に月澄まぬ

万葉

鎌倉右大臣

大澤の池水辛崎の

建保四年四月裏二首合

歌

大澤池の玉藻刈ぬ

月

大澤池の蓮

大澤の池水辛崎の

友原康光

月

晴れ

皇后宮大夫俊成

大和物語

大澤池の蓮

文永二年四月廿七日

光俊朝臣

題

人麿

家集

後頼朝臣

弘安元年百首

後嵯峨院

同

陸奥 雅章

六三

大和 五二

同

文永二年四月廿七日

光俊朝臣

題

人麿

家集

後頼朝臣

弘安元年百首

後嵯峨院

永安五年三月重源鄉丈六の石地蔵寄進

良一法師

建保三年名所注百首

貞應三年百首名所百首

民部卿為家

源仲親

藤原為家

源仲親

讀人不知

正治三年百首

藤原為家

讀人不知

藤原為家

藤原為家

讀人不知

春雨

夜集

伊勢之浦

浦ちかき海ぬしの子ぬれ衣
ぬれぬ袖をば
中務卿

御集池

なにはえの海ぬしの子ぬれ
ぬれぬ袖をば
二條大后宮御歌

明星

おほいの池
逢長八年百首合
衣笠内大臣

行幸
おほいの池
おほいの池

夜集

或初模

布さらしの池
撰

おほぬまの池
おほぬまの池

大和
月
積澤の池
達保三年四月十五日
大和卿百首
大和卿有家

積澤の池
積人

上文已出
六三
月
月
六三
月
月

池の水
池の水
池の水
池の水

祐挙

永仁四年一百首

神祇伯顕仲

[illegible]

恋

三百六十首中

[illegible]

雑部

[illegible]

正三位経長

[illegible]

[illegible]

[illegible]

美作

同

中宮權大夫家房

二條院讃岐

同

宰相中將師

同

二條院讃岐

同

中宮權大夫

二條院讃岐

光堂院入道二品親王

参議師經

院宮内卿

顕仲

同

二條院讃岐

同

二條院讃岐

光堂院入道二品親王

参議師經

同

二條院讃岐

同

二條院讃岐

同

二條院讃岐

天禄四年百首歌合

貞応二年當座百首

日

いろかへぬ松の雪しの日ぬるあるとまもる池の月れ

高池水鳥

鹿澤の信人に於て夕時鹿澤の時ふる池水

周防

周防

日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

110X
495
21